

**山梨県都市計画審議会マスタープラン委員会
第2回資料**

**Ⅰ．県マス・区域マス改定にあたって
の基本的事項の整理**

1.山梨県の都市に係る基本的課題

現行マスタープラン策定時に課題としていた事項

・現行マスタープラン策定時に課題としていた事項

- ・現在のマスタープランに示された方針に基づいて、都市づくりが進められているものの、人口減少など本県の都市づくりを取り巻く状況の変化は、更に厳しさを増しており、継続的な取り組みが必要。

表 現行マスタープランにおける基本的課題

- 1) 人口減少・超高齢社会における今後の都市のあり方に関する課題
- 2) 都市経営コストの最適化に関する課題
- 3) 安全・安心な暮らしへの備えに関する課題
- 4) 産業構造変化への対応に関する課題
- 5) 豊かな自然環境の保全に関する課題
- 6) 観光交流・都市間交流等の促進に関する課題
- 7) 行政体が広域化する流れの中での特性づけの確保に関わる課題
- 8) 県民のニーズにあったまちづくりに関わる課題

新たな課題

・新たな課題

① 拠点地域の活力低下

- 人口減少などがこれまで以上に進展し、拠点地域での活力が低下しており、甲州市、韮崎市、大月市などではDID地区が消滅するなど、特に現行マスタープランで位置付けた地域拠点の衰退が顕著な状況である。
- 地域拠点は、都市圏の自立を支え、けん引する拠点であり、その衰退は県民生活の利便性を大きく損なうこととなる。
- そこで、地域拠点をはじめとする拠点地域の維持、機能強化・分担を進め、持続的な都市づくりを推進していく必要がある。

② リニア駅周辺整備

- H39年に開業が予定されているリニア中央新幹線は、本県においても産業振興や交流拡大の大きな契機となることが期待される
- リニア環境未来都市整備方針では、リニア駅周辺を本県の新たな玄関口として交通、観光交流、産業振興を図ることとしている。
- 上記を踏まえ、リニア開業のインパクトを最大化するために、交通結節点となるリニア駅周辺を本県の目指すべき将来の都市構造の中に位置づけていく必要がある。

新たな課題

・新たな課題

③立地適正化計画策定の動き

- ▶本県では、現在のマスタープランから”都市機能集約型都市構造“を掲げ、これまで推進してきた。国でもコンパクトシティ・プラス・ネットワークを掲げ、立地適正化計画制度が創設されるなど、集約型都市構造への取り組みがより一層求められるところである。
- ▶しかしながら、依然として市街地外での開発は続いており、目指すべき都市構造の実現に向けた実効性の確保が課題となっている。
- ▶今後、県内においても立地適正化計画の作成を目指す市町村数が増加しており、県全体の秩序ある都市づくりを推進しつつ、市町村の計画策定の指針となるような方針を示す必要がある。

④中山間地域の維持

- ▶都市計画区域内外の中山間地域については、高齢化の更なる進展や日常生活に必要な機能の欠如など様々な課題がみられる。
- ▶こうした地域については、現実的な対応として、移動手段の確保や都市地域との連携などにより、中山間地域の暮らしが維持していけるような方策もあわせて検討していく必要がある。

2.県マス・区域マス改定の基本理念・ 基本方針及び目指すべき県土構造 について

基本理念・基本方針

・基本理念・基本方針

- ・現行MPで掲げる基本的課題は、継続的な取り組みが必要であり、かつ集約化に向けた動きは国等の動きとも合致している。
- ・こうした中、新たな課題への対応も必要となることから、基本理念・基本構成について、これまでの考えを踏襲しつつ、修正を検討していく。

表 現行MPの基本理念、基本方針

基本理念	都市機能集約型都市構造の実現
基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・都市機能を集約した活力に満ちた都市づくり (都市機能の集約化、中心市街地の活性化、多様な連携・交流の促進、産業振興の支援) ・美しく魅力あふれる都市づくり (歴史・文化資源の活用、美しく魅力あふれる景観づくり、都市の顔づくり) ・安全で安心して暮らせる都市づくり (災害に強いまちづくり、安全で安心な生活環境の形成、誰もが利用しやすい都市施設づくり) ・環境と共生する都市づくり (環境負荷の軽減、自然環境の保全、郊外部や農山村集落における田園環境の保全、都市の緑化) ・多様な主体の参加と協働による都市づくり (市町村計画や他部門との連携の強化、都市づくりにおける多様な主体の参画)

2. 県マス・区域マス改定の基本理念・基本方針及び目指すべき県土構造について

目指すべき県土構造

・目指すべき県土構造

- ・拠点については、徐々にではあるが、各種事業等の取り組みが進められており、今後とも県民生活の核となるよう、その機能が発揮されることが期待される。
- ・改定にあたっては、更に厳しさを増す社会的環境の変化や新しい拠点・軸の位置付けの必要性も踏まえ、各々の拠点が担うべき役割について、整理していく。

表 現行MPの目指すべき県土構造

